

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34419

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12971

研究課題名（和文）現代アジア系アメリカ文学における「食」と「物語」の関連性に関する考察

研究課題名（英文）A Study of Food Narratives in Contemporary Asian American Literature

研究代表者

松本 ヌキ（Matsumoto, Yuki）

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00734625

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は「食」と「物語」との関係性を探求することであり、北米の日系コミュニティで出版されたクックブックからアジア系アメリカ文学作品まで、幅広い資料を分析の対象とすることで、移民や女性の食にまつわる物語がどのように表象され、語られているのかを考察した。「ジェンダー」「労働」「環境」などのテーマについても焦点を当てた。研究成果として、スイシンファー（イーデイス・イートン）、ヒサエ・ヤマモト、モニク・トゥルン、ルース・オゼキについての論考を発表することができた。文学作品以外にも、クックブックについての研究調査も実施し、その成果を論文にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまでの文学研究においてあまり中心的に議論されてこなかった「食」というテーマに焦点を当て、文学作品以外にもクックブックや社会学的調査なども分析対象に組み込んだ。また現代社会におけるアジア系移民のグローバルな動向やジェンダー、労働、環境などの問題についても考察し、人文学の視点からどのような解決策を提示しうるのかを模索した。分野を越えて今日の社会や文化について考察するための様々な方法論やアプローチを探ることができたのではないかと思う。

研究成果の概要（英文）：This research project titled "A Study of Food Narratives in Contemporary Asian American Literature" aims to explore many different narratives related to food through the examination of Asian American cookbooks and literary works. In addition to the representation of food, this research also focuses on how gender, labor, and environmental issues are described in Asian American writings. The research results include articles on Asian American literary works by Sui Sin Far/Edith Eaton, Hisaye Yamamoto, Monique Truong, and Ruth Ozeki. There is also a publication on Japanese American cookbooks and food narratives.

研究分野：アメリカ文学、アジア系アメリカ研究、ジェンダー研究

キーワード：文学 食 ジェンダー 労働 環境

## 1. 研究開始当初の背景

これまでアジア系アメリカ文学を読んできたなかで、作品中に「食」に対する記述が多く見受けられたが、研究対象として深く考察することはなかった。ヤンフル・カンやカルロス・プロサンなどの初期のアジア系作家の作品では中華街で食事をする場面の描写が印象的であり、当時のアジア系労働移民の食生活を垣間見ることができた。また、モニク・トゥルン、ルース・オゼキ、ミア・アルバールなどの現代の作家たちは、グローバルな資本主義社会における労働の問題やそれが労働移民の主体形成に与える影響などを提示してきた。

アジア系アメリカ研究における「食」というテーマについては、以前から関心があったが、具体的に研究を始めようと思ったきっかけは、2014年のアメリカ文学会関西支部大会11月例会において「食」から読むアメリカ文学」というテーマのシンポジウムに発表者として登壇したことである。実際に調査をしてみると、「食」というテーマが文学研究において不可欠な部分でありながら、あまり消化されていない分野であると感じた。また、2015年の作家モニク・トゥルン氏の来日をきっかけに、彼女の作品についてさらに研究を進めることとなった。

2016年にはアメリカ西海岸(サンフランシスコ、パークレーなど)にて、日系アメリカ人と「食」に関するアンケート調査とフィールドワークを実施し、その結果を2016年5月の国際学会で発表し、2019年に論文としてまとめた。その後さらに調査をすすめて、2018年からは、マイグレーション研究会にて「移民の衣食住」の共同研究に参加し、10月の例会にて、日系アメリカ人とクックブックについての研究成果を報告した。

「食」というテーマについては2014年ごろから独自に調査を実施し、細々とではあるが、関連する資料や作品も読みすすめ、研究報告や論文の執筆に取り組んできた。特にアジア系のコミュニティで共有されてきたクックブックについては、これまであまり研究成果がなく、文学研究という既存の枠組みでは十分に考察することが難しいため、研究会や学会などを通して様々な専門家の方から助言をいただいた。

## 2. 研究の目的

「飢え」という普遍的なテーマに比べると、「食べる」という日常的営みは人種や民族など文化的差異のあるものとして捉えられることが多く、あまり文学研究において中心的に論じられてこなかった。本研究では、社会学、文化人類学、文化研究などの分野の研究対象や手法を組み込むことで、現代のアジア系移民の物語における「食」についての文学的記述、文化的表象、および社会的言説を幅広く考察していくことを目的とした。さらに、これまで文学研究においてはあまり取り上げられなかった「クックブック」の研究やアジア系コミュニティにおける様々な文化的実践の社会的考察についても研究の一部に組み込むことで、より広い視座から研究を遂行することを試みた。

## 3. 研究の方法

初年度はまず、所属大学の図書館を中心に資料を収集した。入手困難な資料については、研究費で購入するか、学外の図書館から資料を請求することにした。また、所属している研究会や学会には、積極的に参加し、研究成果を発表することとした。すでに発表した内容については、論文として成果を残すことを心がけた。

当初の予定では、二年目に北米での調査を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外での調査や研究成果の発信等はできなかった。そのかわり、国内での研究発表や論文投稿についてはおおむね計画通りに遂行することができた。オンラインでのイベントや学会にも参加し、二年目以降には国際シンポジウムでオンライン発表をすることができた。

最終年度には、カナダのカルガリーで国際学会に参加し、現地のアーカイブでも調査を実施した。学会参加後、バンクーバーに滞在し、現地の図書館や資料館にて資料収集とインタビュー調査を行った。年度末には、カルガリーの学会で出会った研究者を交えて、オンラインで講演会とラウンドテーブルを実施した。国際的な研究者とのネットワーク作りや協力体制をつくっていくための一歩を踏み出すことができた。

これまででは、本や論文を読んでそこから論を導いていくことが研究の中心となってきたが、カナダでの研究調査をきっかけに、オンライン・アーカイブの閲覧や現地の研究機関でのアーカイブ調査などの研究手法にもより関心が湧いてきた。今後の研究においても、様々な研究手法を取り入れていきたい。

#### 4. 研究成果

2020年度から2023年度までの4年間において、これまでの研究成果を発展させて活字化するとともに、新たな研究対象について積極的に研究報告を行ってきた。発表の場を広げ、様々な人々の助言を得ることで、論文をより良いものにしていくことができたように思う。また学会や研究会等の共同プロジェクトや共著の企画に参加する機会を得たことにより、研究成果をどのような形で一般に還元していけばよいのか、出版媒体や形態の在り方について見つめ直すよいきっかけとなった。基本的に国際学会などで発表した成果については英語で、国内の学会で発表した内容については日本語で成果を残した。

これまで研究してきたアジア系アメリカ文学についての成果としては、スイシンファー(イーディス・イトン)やヒサエ・ヤマモト、モニク・トゥルンについての論考がある。共著として出版された論文はこれまでの研究成果を集約したものであり、他の研究者との共同プロジェクトの一貫として出された重要な学術的成果である。所属機関の紀要に個人で発表した論文は、インターネット上で一般公開されているため、誰でも自由にアクセスすることができる。

新たに研究対象として取り組んだアジア系アメリカ文学の作家としては、ルース・オゼキやミア・アルバールなどが挙げられる。ルース・オゼキについてはこれまでも研究を進めてきたが、学会発表や論文の執筆に取り組んだのは初めてであり、環境と文学についての学会や研究プロジェクトに参加したことが、大きなきっかけとなった。フィリピン系の作家についても、これまで研究してきたカルロス・プロサンとの比較対象として、ミア・アルバールやルアールハティ・パウティスタなどの作家に目を向け、研究発表を行った。残念ながら研究期間中に論文を出すことができなかったが、すでに執筆段階に入っている。

文学以外にも、クックブックについての研究成果も残すことができた。マイグレーション研究会にて「移民の衣食住」の共同研究プロジェクトに取り組んだ成果が共著で発表されたことは大きな成果の一つであった。南山宗教文化研究所主催のラウンドテーブルでもオンラインで発表する機会を得ることができ、その報告内容については、現在オンラインで読むことができる。その後もカナダのバンクーバーで研究調査を行ったが、残念ながらまだ研究発表をするまでには至っていない。今後は研究成果をより多くの読者にも還元できるように、日本語だけでなく英語での執筆も検討していきたい。

さらに国際学会での発表や英語論文の執筆にも取り組むことができた。研究期間中に、英語論文を二本公開し、現在さらにもう一本は査読の段階にある。いずれも国際学会での研究の成果である。最終年に参加したカナダでの国際シンポジウムへの参加とその年度末にオンラインで実施した例会企画をきっかけに、国内外の研究者の学術交流をより深めることができた。今後も国際的な研究者のネットワークの構築に尽力し、共同で研究する体制を築いていくことができれば幸いである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yuki Matsumoto	4. 巻 28
2. 論文標題 Reading A Tale for the Time Being as Post-disaster Literature	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AALA Journal	6. 最初と最後の頁 70-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 ユキ	4. 巻 18
2. 論文標題 食と飢えについて語る 『ブック・オブ・ソルト』における亡命者たちの物語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近畿大学総合文化研究科紀要『渾沌』	6. 最初と最後の頁 115-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本 ユキ	4. 巻 33
2. 論文標題 日系人によるトランスローカルな宗教と食の実践：北米の事例を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 研究所報	6. 最初と最後の頁 115-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15119/0002000513	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 松本ユキ
2. 発表標題 Lafcadio Hearnを読み直す / 書き換える - The Sweetest Fruitsにおける女たちの語り
3. 学会等名 日本アメリカ文学会関西支部2023年度1月例会若手シンポジウム
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yuki Matsumoto
2. 発表標題 Reading and Teaching Onoto Watanna and Her Sister Sui Sin Far in Japan
3. 学会等名 Onoto Watanna 's Cattle at 100: Indomitable Women in the West During Chinese Exclusion (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本ユキ
2. 発表標題 「本業」としての母親 Mia Alvarの “ In the Country ” におけるグローバルな移動とジェンダー労働
3. 学会等名 日本アメリカ文学会 関西支部例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本ユキ
2. 発表標題 フィリピン系文学の世界 Mia AlvarとLualhati Bautistaを中心に
3. 学会等名 第146回アジア系アメリカ文学会例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本ユキ
2. 発表標題 日系人によるトランスローカルな宗教と食の実践 北米の事例を中心に
3. 学会等名 「宗教・食・移民 トランスローカルな宗教実践の学際的考察」(南山宗教文化研究所主催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuki Matsumoto
2. 発表標題 Reading A Tale for the Time Being as Post-disaster Literature
3. 学会等名 The 7 th International Symposium on Literature and Environment in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本ユキ
2. 発表標題 天災か人災か？－アジア系アメリカ文学における災害
3. 学会等名 文学・環境学会 ( ASLE-Japan )
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 辻和彦・平塚博子・岸野英美 ( 編著 )、松本ユキ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 240
3. 書名 終わりの風景	

1. 著者名 山本秀行・麻生享志・古木圭子・牧野理英編著、松本ユキ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 『アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新地平』	

1. 著者名 河原典史・大原関一浩編著、松本ユキ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 277
3. 書名 『移民の衣食住 一海を渡って何を食べるのか』	

1. 著者名 Paul Iida, Timothy Reagan, John W. Schwieter, Yuki Matsumoto	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Information Age Publishing	5. 総ページ数 354
3. 書名 Readings in Language Studies, Volume 8: Critical Perspectives on Teaching, Learning, and Society	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------